

このコーナーは、学生が県内企業の経営者を訪問し、企業の経営実態や求めている人材等について直接聞き取ることで、学生と企業の相互理解を促進し、雇用のミスマッチ等を解消することを目的としております。第2回目となる今回は、山梨英和大学人間文化学部4年生 木村理恵さんが、山梨県民信用組合 理事長 廣瀬正文氏を取材しました。



経営者

山梨県民信用組合  
理事長  
廣瀬 正文氏

## 地域密着型の 金融機関を目指して

学生

山梨英和大学  
人間文化学部  
4年 木村 理恵さん



### ▶ 学生

はじめに、信用組合の概要についてお聞かせ下さい。

### ▶ 経営者

まずは信用組合とは何かということについて説明させていただきます。信用組合は金融機関の一つではありますが、営利を目的とした銀行と違い、地域中小企業の皆様とその従業員等が組合員となり、地域中小企業の繁栄を図る相互扶助を一番の目的としています。その目的からか、昔は、地域ごとに沢山の信用組合があり、多いときには県内に12の信用組合がそれぞれの地域で活動していました。その後、合併を繰り返したため、現在信用組合は県内で2組となりましたが、地域中小企業の繁栄、相互扶助の精神は延々として引き継がれています。

次に山梨県民信用組合について説明させていただきます。本組合は、山梨県全域と長野県の一部を地域として40店舗で営業活動を行っています。

これは、信用組合としては全国でも比較的大きな規模となります。

経営理念として「地域経済の健全な発展と持続に貢献」「健全かつ信頼される組合経営の構築」の2つを掲げ、地域の組合員の期待にお応えするため、良質の金融サービスの提供、さらに地域に根ざした信用組合として、職員教育の充実、環境活動の実践などを通じた地域社会への貢献等により信用組合としての責務を果たし、地域に信頼される信用組合であり続けたいと考えております。

### ▶ 学生

採用する上で重視すること、従業員に望むことは何でしょうか？

### ▶ 経営者

第一に人間性を重視します。自分の言葉を素直に飾りつけずに、ありのまま伝えることが大切だと考えています。マニュアル通りの借りものの言葉は、すぐに見抜かれてしまいます。また、失敗を恐れずに、自分の意見をはっきり大きな声で言える事が大切です。採用する際には、やる気がある人間かどうかを見ているため、おとなしいと不利になります。

また、事前に企業を見るものさしを身につけておくことも大切です。そのためには社会経験を身につけておくことも重要であり、インターンシップは、有効な手段の一つであると考えています。今の学生は、際立った人が少ないので、他と差別化するためにも、これは私の強みだということを自分の言葉で伝え、「存在感」をアピールすることが大切だと考えています。

### ▶ 学生

御組合の描く将来像は？

### ▶ 経営者

山梨県民信用組合は、山梨県全域にわたる地域のお客様から最も信頼される「なくてはならないコミュニティバンク」を目指していきます。地域金融機関の基本責務を果たすために存在感を揮い、運営していきます。これからも、ネットワークを活かして利用者の相談を受けて、山梨県の経済を潤すことに繋げていきたいと思っております。また、設立当時の思いを今に生かすことや地域の皆様とともにあるという信用組合の原点にもどることを目標とし、変えてはいけないものの価値を再確認していきます。

今後も信用組合の「強み」である、地域経済に密着した営業活動を生かし、事業者の事業の発展・再生に対する支援態勢の強化に取組むとともに、地域の利用者の利便性の向上にも引き続き努めていきます。

### 取材を終えて…

貴重なお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。山梨県民信用組合さんについて詳しく知ることができ、ためになるお話も聞かせて頂きました。取材を通して、経済のことや時事問題についてももっと知識を増やしたいと強く思いました。大切なことを再確認することもできたので、これからの就職活動に更に活かしていきたいと思っております。

